

sousei akita

曹肃秋世



昨年は東日本大震災というまに行ってまいりました。
をすべく、秋田県曹洞のお手伝いをすべく、秋田県曹洞宗青年をすべく、秋田県曹洞宗青年をすべく、一歩一歩踏みしめてはなく、一歩一歩踏みしめてはなく、一歩一歩が、天を衝く勢いではなく、一歩一歩踏みしめではなく、一歩一歩踏みしめではなく、一歩一歩踏みしめではなく、どうするかを皆である実行したいものです。

合

掌

曹青秋田 第72号

平成24年2月1日

発 行 秋田県曹洞宗青年会

雄勝郡羽後町杉宮字宿

久昌寺内

発行責任者 久米 弘道

編集責任者 杉村 寛人

秋曹青ホームページ

http://www.sousei-akita.net/

この 年を振り返 り

秋田県曹洞宗青年会会長 久 米 弘

道

は益々ご清栄の段、 寒さ厳しい日が続いております。 大慶に存じます。 皆様に

とが出来ました。 回復興支援活動 りましたが、両副会長始めボランティア委 するべきか、 じ東北の青年会として何が出来るか、 震災から一年が経とうとしております。 会員諸兄のお知恵、 員代議員、 一日には秋田県曹洞宗青年会としての第一 さて年も明け、 事務局、 ドタバタの見切り発進ではあ (行茶活動) あの筆舌に尽くし難い大 先輩諸老師また多くの お力を拝借し、 を開始するこ 四月十 何を 同

田町、 備に戸惑い会話にも躊躇、 き帰りでは大渋滞、 頂 行ったのはこちらなのに、 方に気を使っていただいている様な、 四月とはいえまだまだ風冷たい岩手県山 ている様な、 スペアタイヤやガソリンを持参し行 何も出来ない無力さを痛 避難所の体育館では準 反対に被災者の ボランティアに 力を

第72号

感し、 られない、 混じった中でのスタートでありました。 屈託な顔を見ていると何かをしないで その反面、 無力感と衝動的な思いが入り 「ありがとう」 の言葉や

を上 なりました。 た。 ャリティTシャツ』も制作販売し、 多彩な活動を展開しております。 もありまとまった人数での活動が可能に は度々被災地に足を運んでいただい ボランティア副委員長の新川泰道老師に 設 月にはビ 回運行し、 ィアバスの運行や岩手県曹青様との協 現状報告や情報収集をしていただきまし 住宅 五月に入り活動方針や特別会計も整い、 また、 回る売れ行きで、 0) 談話室に行茶用具やコタツを購 ハーラ秋田様と共同による『チ がれき撤去から表札書きまで ビハーラ秋田様とのボランテ ボランティアバスは昨年六 この収益金にて仮 また同 予想 て、 力

> 基金』 ます。 の糸理事長 町吉祥寺様を会場にした、 県立山 資金にも有効に活用させていただいており で、震災遺児教育基金『鈴木善幸記念教 生きる希望と勇気の相談会』などの活 への寄付、 田 病院副院長の平泉宣氏とのご縁 佐藤久男氏をお迎えしての 同町龍泉寺様並びに大槌 NPO法人蜘蛛 育

ました。 ちを今一度新たにした晩秋のひと時であり 護か晴天にも恵まれ、 援をお願い致しました。 ア&ノリシゲさんによるミニライブ等で、 町に戻られて音楽活動をされている、 要と大槌町吉祥寺様の『お寺を避難所にさ 災追悼と復興への祈り』を開催し、 田市の正法院様をお借りして『東日本大震 お集まりの多くの方々に復興への更なる支 れて』のお話、 十月には住職学研修の一つとして、 大槌町出身で震災後は大槌 我々も復興への気持 鎌倉大仏様のご加 追悼法 北 1)

には 随聞会』を開催致しました。 また復興に思いを寄せながらも八月 『弁道会』、 十一月十七日十八 今期 ĺ 日 現 二日

入し設置させていただきました。また、

代僧侶・今求められる姿』と題し、 ております。 研鑽

と、 我 師 我々でしか出来ないことを学んでいこう した。 の仏教を考える会代表の藤木隆宣老師を講 とを学びました。 歩んできたかを、 時代の変化と共に寺院と僧侶がどのように した。しかし、今求められる姿=ボランテ でありました。 なればと思うものであります。 について事例から対応までをご講義頂きま る問題、 義いただき、過去の教訓から今に通ずるこ 弁道会では北秋田市龍泉寺佐藤俊晃老師を 大震災が起ころうとは思いもよりませんで 有意義なご講義に時間の超過も忘れるほど 師に この題を思いついた時、 々が抱えている問題、 に『現代僧侶の危機管理』と題し、 取り組む決意をした次第であります。 今後の会員諸兄の布教活動の指南に 今だからこそ我々に出来る、また 『時代による僧侶の変貌』と題し また厳しく指摘されている諸事情 随聞会では、二十一世紀 主に明治期を中心にご講 これから起こりう まさかあの様な 両老師とも

> 汚し、 を担っていると信じてやみません。 らかのお役に立っていると、 付いていく景色を見るたびに、復興への何 しかし被災地を訪れるたびに、少しずつ片 呆れ果て、 この一年秋田県曹洞宗青年会会長の位を 自らの決断力のなさと不甲斐無さに 自問自答の日々でありました。 何らかの

か・ ろ、 度も微力ながら復興へのお手伝い 生活に戻れるようにとの祈りが込められて を続けさせていただく所存であり いるのだ、ということです。次年 の美しい三陸の海に戻れるようにと、 わせを度々頂きました。発案者の新川 チ れ ば、 ャリティTシャツを販売し始めたこ 「他に色は無いのか?」という問い この困難を乗り越え一日も早くあ この青は三陸の 海 0 青だと 元 師

ょ

には更なる大衆の威神力をお貸し 下さいます様、 益 上げます。 県内ご寺院様におかれましては 々のご支援ご協力を、 伏してお願い申 会員諸兄 合 堂

ます。



『東日本大震災追悼と復興への祈り』追悼法要



導師を務める久米弘道師

年を振り返り

ボランティア委員会兼災害復興支援本部委員長 翁 浦 賢 Ξ 十三教区 大龍寺

の活動として支援物

秋

田

曹青では、

最

初

での仕事がキャンセ との声と共に、 況でしたが、「被災地は 内も物流が滞り、 を募りました。 を掛けてくれて有難う_ か分からなかった。 一人では何をしてい のように集まりまし っともっと大変」、 用 品、 震災で三ヶ月先ま 燃料不足の状 物資が 秋田 食料、 声

き受けてくれました。 はトラックを提供しくれ、 自ら運転手を引

なってしまった友人

と報じられた高田松原の最後の松が残って を失い、 したが、 していました。その平地に 日でした。 ・ました。 最初の訪問先は陸前高田 市の中心部は荒涼とした平地と化 傷つきながらも一本だけ残って 周 陸前高田は人口の十分の りの 木はすべて流されていま 市、 「奇跡の一本松 三月二十三 一近く

第72号

コ 13

この手を尽くしてこの松を必死に守ろうと 悪くなっていましたが、 事、 らっていました。 と自分を重ね、そしてこの松から勇気をも 向かってそびえ立つ一本松。 興作戦のシンボルとしてこの一 たのです。 います。 て人々が心を一つにするシンボルになって していました。この一本松は、 ってしまった海岸で、 インしたマークを掲げました。 いうスロー すべてを失ってしまった人達がこの松 自衛隊は ガンを打ち出し、 海水で根が傷み葉の色も 高田 健気にも力強く天に 皆が工夫しあの手 松原 家、 陸前高田の復 本松をデザ 復興へ向け 何もなくな の希 家族、 望 لح 仕

らっています。 世界中の人々が被災地の人々から勇気をも 0 ているように、 再生を可能にすると信じています。 被災地の人々がこの松から勇気をもらっ その力は東北の再生、 被災地を支援する日本中、 \mathbb{H} 本

持ちより、 ことは、 1 たと云う気持ちでした。 支援活動を通じていつも強く感じてい ヒーをお配りしていたら一多くの人に 被災者の為に何かをしたと云う気 いつも被災者から大きな力を頂 震災間もない 頃 た

> す。 声。 えを聞きました。この与えられた力はよ からいつも元気を与えられ、 地の方々の何気ない言葉、 無邪気に喜ぶ女性達の笑顔と明るい声。 としての誇りは持てるようになった」との 何もかもなくしてしまったけれど、 災後、支援の老若男女があちこちから来 どうなってしまうのかと心配していた。 の声。「震災前、 多くの人々と分かち合いたいと思って くれた。 行き渡るように少しずつでいいですよ」 支給された化粧品を大事そうに抱え、 被災者も互いに助け合っている。 色んな事件があって日 表情、 また仏様の教 振る 日本人 舞 本は 11 ح ま 現 震

なる、 と思います。 とでもこつこつと長く積み重ねていきたい 望 苦痛や悲しみに寄り添い、そして新たな希 失ってしまった被災者の方々の今の支えと るかも知れない苦痛や悲しみ。 を得ることを想う新たな希望 時間を経たこれからじわじわとやってく 「復興」 再生した街を想い、 の支えとなるように、 新たな仕事、 「復興」。 夢も希望も 小さなこ 家

災害復興支援本部ニューズレター No.3

秋田県曹洞宗青年会は被災地を応援します!

東日本大震災の支援活動に ご協力をおねがいします

~被災者に直接届く活動を~

秋田県曹洞宗青年会は3月より、震災被災地への救援物資搬送や「足湯サービス」、避難所でお茶やコーヒーなどのサービスを行う「行茶活動」等を実施しています。今後も更なる活動の継続・展開のために、皆様のご協力を何卒よろしくお願いいたします。



陸前高田災害ボランティアセンターにて

■チャリティエシャツの収益活用第一弾

仮設住宅へ入居間もない住民に、まだ存在すら知られていない「談話室」が有効活用されることを願い、 備品として湯呑みや急須、お湯ポット、コーヒーメーカー、食器棚等を寄贈させていただきました。

今後の仮設住宅での生活において、ご近所同士の絆が深まることで生活再建への大きな力になると思われます。住民の「私たちで今後はいろんな集まりを開きましょう!」との言葉に、頼もしさを感じました。



大槌町での追悼法要(7月11日)

■「チャリティTシャツ」大好評!

当会とビハーラ秋田との共同企画による復興 支援チャリティTシャツが、おかげさまで県内 外から好評をいただき、発売開始2ヶ月ほどで 既に二千枚の売上となりました。活動参加者も このTシャツを着用のうえ、連帯感を持って現 地での支援に取り組んでいます。

よく「他の色はないの?」と尋ねられます。 このTシャツの青は「三陸の海辺の景色が、早 く元通りになるように…」との願いを込めての こととご理解いただければ幸いです。



仮設住宅の談話室で交流のひととき (釜石市)

多くの企業・商店・団体・寺院・個人の皆様のご協力に感謝いたします(6~7月) (株伊徳様(ボランティア参加、支援物資提供)、キーコーヒー秋田営業所様(コーヒー豆・シュガー・マドラー等ご提供) 北秋田市スポーツ少年団様(バス運行協力)、JA 北秋田葬祭センター様(ボランティア参加)…多くの寺院・個人の皆様

募金や物資の提供、車両・備品の貸出など皆様のご協力をお願いします

秋田県曹洞宗青年会 災害復興支援本部 www.sousei-akita.net 男鹿市・大龍寺(三浦) Tel 090-6684-2377

募金受付(郵便振替)02200-3-132189 口座名:秋田県曹洞宗青年会 ※通信欄に「被災地支援」とご記入下さい

これからの復興支援活動に向けて

(藤里町・宝昌寺住職) 川 泰 道

の折、遺体安置所での光景は今なお忘れら三月、救援物資搬送で最初の被災地入り

れません。多くのご遺体に合掌、犠牲者の

冥福をお祈りし、

被災地での深い悲しみと

真摯に対応する地元僧侶達の姿を目の当た

していこうと決意した場面でした。以来、りにして、隣県の者として可能な限り応援

住宅での行茶などの活動は、多くの犠牲者

足湯サービスやガレキ撤去、

避難所や仮設

まで多くの方々のご参加ご協力に、厚く感

の鎮魂・慰霊の行でもありました。これ

謝申し上げます。

ありません。一方で、大切な家族を失ったす。特に雇用や経済にまつわる課題が山積しており、おいそれと解決できるものでは、震災発生から間もなく一年となりますが、

ています。 見える関係」による支援がより必要とされしてきた点ではありますが、個別の、「顔のしてきた点ではありますが、個別の、「顔の状態の方も見受けられます。当初より意識状態がある。

制を継続すべきと考えます。 ち極力リアルタイムの情報を提供いただき、ら極力リアルタイムの情報を提供いただき、

会と時間で、よそ者の私たちができることを続き意識すべき点と思われます。仮設住を続き意識すべき点と思われます。仮設住を活めが進んでいるようにも感じますが、取形成が進んでいるようにも感じますが、取り残された人々も大勢おります。少ない機り残された人々も大勢おります。少ない機

な活動でありたいと思います。「生きる力」を取り戻すきっかけとなるようはごく僅かですが、被災者同士が支え合い、

最後に「被災地のお寺」を支えることです。避難所や遺体安置所、各種支援活動のす。避難所や遺体安置所、各種支援活動のがお寺としてできること、やるべきことを彼等は今も模索しています。それを少しでも後ろから支えるのは、人的また建物被害を受けた寺院も含め、被災地全体のためでもあると考えます。また私共の日頃の寺院もあると考えます。また私共の日頃の寺にもなるはずです。

でいます。私達もまたこの東北の地で、支 でいます。私達もまたこの東北の地で、支 え合いの文化を築いていく道の途中にあります。何より安全面に十分配慮の上、今後 ます。何より安全面に十分配慮の上、今後 ます。何より安全面に十分配慮の上、今後

合掌

秋曹青 平成23年度活動

◆弁道会

今年度の弁道会が8月2日午後、秋田県宗務所・禅センターにて行われました。講師に北秋田市龍泉寺ご住職、佐藤俊晃老師をお迎えし、「時代による僧侶の変貌」との演題でご講義いただきました。ご講義では明治期の曹洞宗教団について、「天皇制国家日本の下での教団」「妻帯について」「当時の宗旨について」「修証義について」の4点に分けて解説していただきました。「今の宗門の基本となっている



教えも、当時の成り立ちを考えると問題を抱えているということがある。

その時代時代の僧侶が、自分の意見を言えずとも体制に向かって行った、苦心の現れが有った。明治という時代は宗門の転換 期として重要な時代だった。」「仏法の真理である"理"を忘れずに、具体的な世間的な事柄である"事"に重点を置き、同事を説いた道元禅師。過ぎた時代を批判するのは簡単だが、この今の時代に"事"に対して自分はどうできるだろうか。」お盆前の開催となりましたが、さわやかな天候にも恵まれ、30名超の会員が熱心に講義に耳を傾けました。

◆「東日本大震災」追悼と復興への祈り



10月29日午後より北秋田市正法院様を会場に「東日本大震災」追悼と復興への祈りが行われました。

追悼法要の後、「3月11日吉里吉里地区のあの時」と題して岩手県大槌町吉祥寺住職高橋英悟師のお話、引き続き大槌町出身で震災後は大槌町に戻られ音楽活動をされているRIA&ノリシゲによるミニライブが行われた。

およそ130名の方々が参加して下さいました。

◆随聞会

11月17日から18日にかけて、秋田市歓喜寺様に於いて、随聞会が開かれました。講師に「21世紀の仏教を考える会」代表であり、福井県臥牛院ご住職の藤木隆宣老師をお迎えし「現代僧侶の危機管理」と題してご講義頂きました。

1日目の講義では事前に会員よりアンケートをとった、現代のお寺の諸問題について、質問に答える形でお話が進みました。都市部との格差の問題、少子高齢化の問題、寺壇関係の問題、永代供養について等、様々な質問に丁寧にお応え頂きました。「昔はお寺さんの言う事は絶対であったが、今は絶対ではないという流れがある。葬儀法要が檀家さんとの繋がりの要であり、頼られる僧侶を目指して欲しい。」

2日目はグループワークが行われ、参加者は各グループに分かれて「これからの寺壇関係」「お寺の社会貢献」「寺族はどうお寺に関わるべきか」というテーマについて話し合いの後、発表し合いました。「今後は寺と檀家という関係から、和尚と信者のような関係になっていくであろう。しっかりとした和尚が求められる。こうあるべき、では無く、個性を活かせるようになって欲しい。お寺、和尚への期待は大きい。」



答 問 0) りあり、 関係有り 座に . 問 それ農家の人々 や又無しや。 <u>:</u>う、 田 旧畑を 耕 す は 農業と仏 H 々 仏 道 教

中々の何を以ってを行じているぞ。 なり、春に種² 乞処は見よ、 は仏果菩提を成就するなり、やるは慈悲心を与うるなり、田の草を取るは煩悩を除くな の草を取るは煩悩を除くなり、 春に種を蒔くは仏性を蒔くなり、 何を以って仏道となすや 田畑を耕すは仏田 秋の を耕 収穫 水を す

答問

万歳。 ば、田 この仏法は修せざれ 畑を耕すことそのままが仏 別に修行の必要はござるま ば現れず、 道 証 な せ ざ

答問

答

問

そのニ・ 地獄と極楽

答問

問 作者は、 や又無しや。 来世に 果たして 地 獄 極 楽 有

仏説には有りと説く。

らや。

答問答問答 十万億土とは何処なりや。十万億土の西に有り。有りとすれば何処に有りや 万億土とは何処なりや。

人 試

みに探求せよ、

日本

海

を渡

ŋ

答問答問

るに有り。

リアを

越 きえ、

大西洋

より

ア

太平洋を越えて遂にこ

0) メ

地 IJ

に

元に至

答問

処なり、最⁷ 関弥陀経に口 阿弥陀経に口 り。 最も近き処、 遠からざる処とは! お己 この心に有に土とは程

答問 万歳。

そ う の 三 •

死 を 離 生死即涅 れ りと、如何な 何なるか是れれるは仏家の 生死と

問

因

縁

なり

生死即 涅槃とは死後の世界ではござらは別々にあらず。 涅 即 生 死、 生 死 ع 涅 槃

答

いいや、 槃の境涯なるぞ。 来たって万山紅葉、しき時は泣く、春来 泣く、春来れば百花爛漫、涅槃とは嬉しき時は喜び、 そのままの 姿が か。 涅 秋 悲

はござらぬか。 我々凡夫の日常生活と変わりはないで 嬉しき時は喜び、 悲しき時に泣 くは、

問

わいいや や、 \mathbb{H} 夜執着の苦悩に は り 凡夫の喜び でしみけ 万事 VIE る執

答

珍重。柳は緑、 重ね 7 旬 は きたまえ。

言っているんだろう、 問答をしていただきました。 集の一部です。実際に私も首座を務めさせ 二十四世 は私の師匠でもあります、 いただいているのに、 式せっかく大勢の檀家様が参列し見に来て また、自身の晋山結制の際も首座にこの問 ていただいた時に、この問答を行いました。 答集により法戦式をしていただきました。 ・・と思われるのも嫌でしたので、 私自身、晋山結制・そして見せ場の法戦 私事になりますが、 杉村羊象師が作った禅問答 上に載せました問答 大きい声で一体何を さっぱり分からな 第八教区東林寺

集です。 すが、私にとってはとても思い出深い問答 < らも「何を言っているかとても分かりやす ただきました。賛否両論はあるかと思いま 五教区光正寺 集まっていただきました檀家の皆様方か 禅問答っておもしろいな。」と言ってい 是非使ってみたいとい 杉村寛人まで。 う方は、

正とお詫び

◎曹洞宗青年会会員名簿 1 ジより

- 正 会長 久米弘道 1 教区
- 会長 久米弘道 5 教区
- 3教区近藤俊彦 清徳寺
- 3教区近藤俊彦 圓通寺

正